

桂枝加竜骨牡蛎湯の運用において



峯 尚志 先生

峯クリニック

1985年 熊本大学医学部卒業
 1986年 医療法人木津川厚生会加賀屋病院にて三谷和合先生に師事
 1999年 上海中医薬大学に短期留学
 2004年 峯クリニック開設

はじめに

桂枝加竜骨牡蛎湯は桂枝湯の構成生薬に竜骨、牡蛎を加えた処方である。原典である「金匱要略」には、表のように記載されている。このことから、その適応は小児夜尿症、神経衰弱、遺精、陰萎というように、精の消耗を示唆する病態に用いられる。

表：桂枝加竜骨牡蛎湯『金匱要略』

それ失精家は、**小腹弦急し、陰頭寒え、目眩し、髪落ち、脈は極虚し乳遅、清穀乏血失精をなす。**脈は諸を乳動微緊に得、**男子は失精し、女子は夢交す。**桂枝加竜骨牡蛎湯これを主る。

先天の元気の元である腎が弱くなり、心陽を制御できなくなって、陽がひとり上に昇った状態と考えられる。先天の元気が充実していれば、船の錨のように、気が上昇することなく、気分も安定する。土台にしっかりと結び付けられていない風船が、ふわふわと漂っているイメージ(図1)が桂枝加竜骨牡蛎湯の証(適応)といえる。

症 例

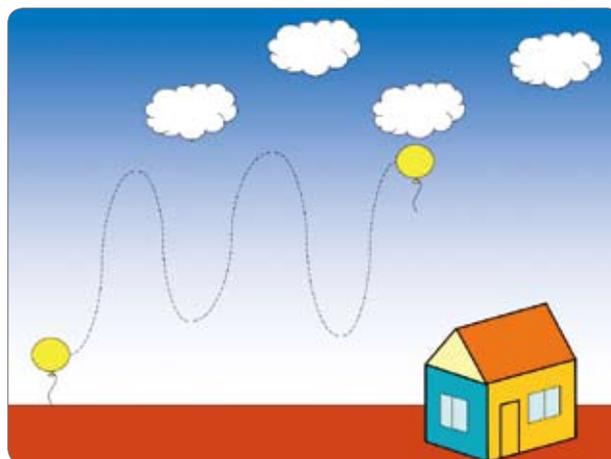
【症例1】 動悸、息が吸えない

症 例：35歳 女性

主 訴：動悸、息が吸えない

現 病 歴：半年前、突然、動悸がして息が吸えない状態となり、救急外来を受診した。その際、心電図

図1：桂枝加竜骨牡蛎湯のイメージ



などの内科的検査では異常を認めず、安定剤の投与を受け帰宅した。しかし、その後も常に緊張した状態で食欲不振、不眠、多夢があり、不安と緊張が強いため当院を受診した。

現 症：身長159cm、体重43kg。血圧110/80mmHg、脈拍75で整であった。肩から首にかけて緊張が激しく、ロボットのように歩く。表情は不安げで、頬がうっすらと上気している。

東洋医学的所見：脈は弦、細数。舌はやや紅色で薄い白苔を認める。腹力は弱、痩せて腹直筋が緊張している。

経 過：自分の中に別の人格が入りこんでどんどん自分がなくなっていく感じがして、このまま行くなら命を絶つしかないとまで考えていた。桂枝加竜骨牡蛎湯を処方し、酸棗仁湯1包を眠前に処方した。服薬後、動悸、不安が徐々に改善し、悪夢が減り、眠れるようになった。息抜きの仕方を工夫したり、

呼吸法を指導して3ヵ月後には症状改善、半年後にはようやく元の自分に戻れたと報告があった。

【症例2】 陰部の冷え

症 例：56歳 男性

主 訴：陰部の冷え

現 病 歴：3ヵ月前より陰部の先が冷えるような感じがする。左耳にシャーシャーという耳鳴りがある。

現 症：身長167cm、体重57kg。痩せ型。

東洋医学的所見：脈は沈細。胸脇苦満なし、腹直筋の緊張(+)、臍下不仁(+)。舌は淡紅色で薄白苔。表情は不安げで落ち着きがなく、頬が上気している。

経 過：桂枝加竜骨牡蛎湯を処方。服薬3日目腹部の冷えはなくなり、頬の上気がとれ、耳鳴りと不安感も軽減した。これをきっかけに10歳年下の女性と交際がはじまり、無事結婚。しかしその後、性的不安を訴えられるため、フリーテストステロンを測定したところ低値を示したため、本治として六味丸加杜仲、釣藤鈎にスッポン末3gを併用したところ、円満な夫婦生活が送れるようになり自信が回復した。耳鳴りは3ヵ月で消失した。

【症例3】 夜間の徘徊

症 例：85歳 女性

現 病 歴：慢性気管支炎、慢性膀胱炎にて入院中だが、病状は落ち着いている。1ヵ月前より夜間の徘徊が始まり、男性患者さんの部屋に行き寝ているところをしばしば保護されている。

現 症：身長150cm、体重38kgと痩せ型。血圧115/78mmHg。

東洋医学的所見：脈は沈細弱やや数。舌は紅色で白苔少量。腹部は痩せて腹力1/5。臍下不仁を認める。便通は1日2回。頬にほんのりと赤みがある。

経 過：普段はおとなしい方で、日中の会話は普通にできるが、直前のことを覚えていないことがある。夜になると糸の切れた風船のようにふわふわと徘徊が始まる。朝に聞いても前日のことは覚えていない。桂枝加竜骨牡蛎湯を処方したところ3日後より徘徊はなくなり、良眠できるようになり、夜間の見当識も改善した。

考 察

桂枝加竜骨牡蛎湯には腎精を補う生薬は含まれていないが、陰と陽、興奮と抑制のバランスをとることによって、臨床的效果を発揮する(図2)。桂枝加

図2：桂枝加竜骨牡蛎湯



竜骨牡蛎湯は、糸の切れた風船がふわふわと空中を舞うように、虚陽が浮揚する病態に用いられる。病症としては不眠、イライラ、動悸、不安、夜尿、頻尿などがある。先天の元気のもとである腎が弱くなり、心陽を制御できなくなって陽がひとり上に昇った状態と考えられる。地に足をつけることによって人間の身心は安定する。そのためには腎精を補う生薬も必要となるが、桂枝加竜骨牡蛎湯にはそのような生薬が含まれていないので、本治としては、六味丸などの補腎の処方を加味する必要があると思われる。

C o m m e n t s

後山：峯先生には毎年、非常に参考になる症例をご紹介いただいています。今回の症例からも桂枝加竜骨牡蛎湯が適している患者さんのプロフィールのイメージをご理解いただけたのではないのでしょうか。

桂枝加竜骨牡蛎湯は、腎虚で気血不足で気逆がある症例に使用するという概念をもっていましたが、峯先生の今日のお話を聞いて、さらに心腎不交というものが、精神的にも身体的にもまさに風船のようにふわふわとしているというというのが、よい適応であることを改めて学びました。ありがとうございました。